

「避難先に原発」地元不安

「40年超」再稼働同意 渋滞・大雪も

福井県の杉本達治知事が28日、「40年超原発」の再稼働に正式に同意した。関西電力の美浜原発3号機（同県美浜町）と高浜原発1、2号機（同県高浜町）の地元では、事故発生時に安全に避難できるのか、懸念する声が強い。10年前の東京電力福島第1原発事故の直後から指摘されてきた懸念で、住民からは「実際には避難できないのではないか」と疑問の声が上がっている。（1面参照）

1970年に初送電した美浜原発は、関電にとって

「パイオニアの地」。雇用創出や税金などで地元も潤った。しかし、福島第1原発事故以降、1、2号機が廃炉となり、3号機も停止した。松下照幸美浜町議（72）は3号機も廃炉になると思っていたと言いつつ、「老朽原発」が大地震に耐えられるか疑問だ」と話す。今年1月に政府の原子力防災会議が了承した避難計画では、住民の避難先は大飯原発が立地する同県おおい町とされた。地震や津波でどうなるか分からない原発立地町に避難するのは、安易

な選択だ。人口も美浜町より少なく、本当に収容できるのか。疑問は尽きない。渋滞も不安要素となっている。人口約8万2000人の同県越前市は、美浜原発で避難計画を要する30キロ圏内の緊急防護措置区域（UPZ）の中で、避難対象住民が最も多い。大半がマイカーを使って北陸自動車道や国道8号で県北部や右川原に避難することが想定されているが、同市内に住む映像制作業、若泉政人さん（54）は「渋滞が起きるのは必至」と懸念する。そこ

に、豪雪地帯特有の事情が重なる。今年1月9日から3日間、県北部は大雪のため北陸自動車道で最大約1500台が巻き込まれる立ち往生が発生。並行する国道8号でも10〜12日、最長15キロの渋滞が起きた。若泉さんは「最悪の事態を想定するのが危機管理の鉄則のはずだが、自治体ができているとは思えない」と指摘する。

課題を抱えたまま、地域は原発と共存してきた。高浜原発の直近にある高浜町音海地区の50代の男性は「40年以上も動かす（運転する）とは聞いておらず、（再稼働に）反対もしたが、周りには関電で働く人がいて、あきらめるしかない。だが、目の前の原発への不安は消えない」と語った。

【大島秀利】